

「じゃ、今から撮りますからね」

「あ、はい
お願いしますう」

「はい、もう回ってますよ」

「じゃさっそくなんですかとお
自己紹介してもらってもいいですかねえ？」



「えーっとおー…」

ホロライブ3期性の宝鐘マリンですうー♡」

「今日はよろしくお願いしまーす♡」



「はい、よろしくお願ひしますね」

「それじゃあ…
まずスリーサイズから教えてもらってもいい？」



「いやあーん、それはちよつと言いたくないですねー♡
でもお尻のサイズには自信ありますよおー♡」

「なにそれw
まあ確かにデカいけど♡」

「じゃあなんでAVに出ることに
なったのか教えてくれる？」



「えー……?……まあ、彼氏っていうか、
船長のこと好きな人があー……
寝取らせ……?……的なのが好きでえ……」

「えーってことは彼氏の為ってこと?
そんなこと聞かされたら燃えるじゃん♡」

「堕として俺の物にしちやおっかなあ♡」



「いやいや…船長はそんなちよろくないですから…
ただお願いされたから出てるだけなんです」

「セックスだけで堕ちるとか
エロ漫画だけの話なんだワ」



「いやいや、俺めっちゃ自信ありますけど♡
何人も堕としてセフレにしてきたし」

「皆そういうんですよねえ〜
話半分で聞いときますう〜」



「え、ていうか彼氏ってどうなんですかあ？
寝取らせ好きの彼氏って大抵拗らせた
粗チンマゾってのがお決まりなんですけど♡」

「はあ、そういう決めつけやめてもらえますかあ？
ノーコメントでお願いします」



「あゝ分かりましたよ
じや煩わしいインタビュースっ飛ばして
もう始めちゃいますかあ」

「望むところですよおゝ♡」



(いるんですよねえ…
こういう自分に自信満々のウザい男…)

(まあ彼氏が粗チンなのはその通りですけど…
ムラムラ解消してさっさと帰りますかー♡)





ズル

「んっ…っ…♡」

「な、なんかでつかくはないですか…?」

「いやあーアイドルオナホに出来るチャンスなんでえー…
普段よりビキビキになっちゃいましたわ♡」

「へ…へえ♡♡」

ドキドキ♡



「あれえ？なんか声震えてませんか？
こんなデカチン見たこと無かったり？」

「少なくとも彼氏のチンポは
俺以下って感じっすかねえ♡」

「んっ♡」



「い、いやいや?...
小さ過ぎて驚いただけですよ!...!」

「そういうのいいんで
さつさと始めてもらえますう!...!?!」

「はいはいっ♡」



(思ったよりでかいんだが...?
え、やばくね?...こんなの入るんですか?)

(いやあ...♡
ちよつとやばいかもだワ...♡)



(このエロババア……♡
絶対俺の物にしてやるわ♡)

(仮にもアイドルのセフレなんてサイコーだろ♡
しかも彼氏持ちとかたまんね♡)

(本気で堕としてやるわ♡)





「それじゃあ早速啜えてもらおっかなあ」

「いきなりご奉仕させるんですかあ？
贅沢な人ですねえ」

「いやあ、経験豊富そうなんで
ねっとり頼みますよ」♡」

「…しよがないですねえ…♡」



「うおっすっげえエロ顔♡
どんだけチンポ好きなんだよ♡」

ぬっ

ぽお♡

「どっすか俺のデカチン♡
彼氏の雑魚ちんぽよりもずつとぅまいでしょ」



(こいつ彼氏のことばっか聞いてばっかじゃねーかつ♡
それしか語彙ないんか? くどいんだよっ♡)

(あゝ♡やばっめっちゃでかいっ♡
しよっぱい味とくっさい匂いたまんねっ♡)

グッ♡

グッ♡



(撮られてるのにい♡
彼氏だっっているのにい♡)

(下品な顔して下品な音立てて
ちんぽしやぶんのやめられないんだワ♡)

じゅぽっ♡

ぬぽっ♡
ぐぽっ♡

「あーうんま♡
さすが年行ってるだけありますね♡」

「彼氏にもやってあげてるんすか? これ W」

ごほう♡

ずんずん♡
んも♡

(誰が年行ってるだよこのクソガキッ♡)

(あーでもっそんなクソガキのちんぽ
しゃぶるの悔しくて最高ですう♡)

ミオミオ♡

イク♡



「うおっ…急に激しくなった♡
なんすかなんすか♡
年行ってるって言われたのが嫌だった？」

「あーやつべ♡
出ちやいそうだわ…♡」

グポッ♡
ズズズ♡

(ふんっ、偉そうに言っといて
ちよつと激しくしたらこれですもんね
舐めんなよクソガキッ♡)

(はっしよっぱいのだらだら出てきてるう…♡
出せっ…このまま出せっ…♡)



「あーやっべ…出る出る出る出る…」

「出るっ♡」



(キタアツ…♡)

(はーぶっ濃っ…♡
ねっばねばであっつう…♡
若さ溢れるぴちぴちザーメンうんまあ♡)

ニ。ム。ム。♡
グ。ム。ム。♡

(っーか出過ぎなんですけどっ
飲みきれないんだワ♡)

「いやぁーめちやくちや出ましたわ…♡
舐めてましたよ正直♡」

ド 口オ♡

「ちなみに俺まだまだ萎えてないんで
もつと搾ってもらいますよ♡」

（はー…船長も正直舐めてましたねえー♡
これ大丈夫なんですか…♡）

ドキッ♡







「どうでしたあ？」

「ま…まあぼちぼちだったワ…♡」



「ぼちぼちとか強がりやがって♡
さっきあんなにちんぽに貪りついてたろ♡」

「しよ…商品になるんでえ…
適当な演技出来ないじゃないですかあ…」



「はいはい♡
でえ…また会いたいと思ってくれましたあ？」

「撮影とか彼氏とか抜きで俺のデカチン
またたっぷり仕込んでやるよ♡」



「そ…それは…まあ…ノーコメントで…♡」

「けっ♡…まあいいっすよ♡」

「じゃ最後の最後にチン負け宣言してもらえますう?」

「パケ写にもなるんでえ
目隠して…お願いしますわ」



「もー…なんなんですかそれー♡
…こうでいいですかあ？」

「いつすよいつすよ…
じゃチン負け宣言お願いしますねえ？」



「…んも…」

船長はあ…彼氏いるのにも関わらずう…♡
ヤリチンのデカチンにメロメロになっちゃいまぴた♡」

「船長は彼氏のよりも

デカイチンポに媚び散らかす淫乱女ですう♡」

「これでいいですかあ？」



「おっけおっけ♡はーたまんね…♡」

「これで撮影終わりなんでえ……
こっからは完全オフでパコリません…？♡」

「……♡」



「一回だけですよぉ?」

